

## 西濃農林事務所の普及活動状況（令和8年5月）

### 今月の重点活動

#### ■担い手リーダー 岐阜県担い手リーダー総会開催（5月19日）

岐阜県庁において、担い手リーダーの総会、感謝状贈呈式・認定証交付式、指導力向上研修が開催され、西濃農林事務所管内からは13名の担い手リーダーが出席した。

農林事務所は、担い手リーダーや市町と連携し、新たな担い手の確保に努めてきた結果、今年度は指導農業士2名、女性農業経営アドバイザー3名、青年農業士1名が新たに認定された。今後、これまで以上に活発な活動が期待される。

今後も農林事務所は、地域農業を牽引する担い手リーダーの育成と組織活動を支援していく。



【感謝状・認定証授与後の記念撮影】

### 新たな担い手の確保

#### ■柿 城山小学校児童が柿の摘蕾作業を体験（5月11日）

海津市南濃町の柿園にて、城山小学校の児童40名を対象に柿の摘蕾体験授業が実施され、農林事務所から摘蕾方法と県産柿の説明をした。

同校では、地元で生産される柿について、知識習得と栽培体験を通じ、子供たちの柿への関心を深める目的で、年間を通して授業を計画している。今回は農林事務所の他、南濃柿部会生産者、JAにしみの担当者らも出席し、摘蕾を指導した。農林事務所では食農教育を通じ、将来的な後継者育成に繋がることを期待している。



【摘蕾体験授業】

#### ■南濃道の駅出荷者協議会 農薬に関する講習会支援（5月15日）

南濃道の駅出荷者協議会には、現在約120名の会員が在籍しており栽培講習会をはじめとした自主的な活動を実施している。

5月15日には、協議会主催の農薬講習会が開催され、農林事務所は講師として、農薬の適正使用や保管方法のほか、農産物の衛生管理や有毒植物への注意喚起について説明した。出席者は、自身が栽培する農産物の安全性について、より意識を高めることができた。

農林事務所は直売所出荷者を多様な担い手と位置付け、今後も継続して各種活動を支援していく。



【講習会での質疑応答】

### 潜在力をフル活用した生産強化

#### ■花き I P M 推進の取組み（4月27日・5月15日）

みどりの食料システム戦略の実現に向けて、西濃管内では切バラ栽培におけるI P Mの普及・推進にかかる取組みを支援している。

神戸町の実証圃場では、UV-Bランプの活用や天敵農薬による、うどんこ病・ハダニ類・スリップス類の総合防除に取り組んでおり、4月27日に調査地点の検討、5月15日には上記病害虫の発生量調査を行った。農林事務所では、今後も調査を継続し、長期的な効果を確認し、バラのグリーンな栽培体系の確立に向けて支援を行っていく。



【設置中のUV-Bランプ】

### ■いちご 平田苺園芸組合 親株管理研究会（5月8日）

平田町苺園芸組合は、JAにしみの海津北支店にて親株管理研究会を開催した。

生産者のほ場では親株からランナーが伸び、6月から苗受けの準備がされていく状況の中、農林事務所から育苗施設内の雑草除去による病虫害増殖の抑制、気温上昇時期におけるかん水方法、ハウスの遮光、8月までの施肥及び苗の体内窒素の変化などについて説明を行った。また、全農岐阜からは中東情勢に関連して資材確保が困難となっているため、令和8年度は平パック出荷を行わないことが伝達された。

農林事務所では、個別巡回を通して、気温上昇に対する管理、病虫害対策、肥培管理などを指導していく。



【親株管理研究会】

### ■小麦 現地検討会を開催（5月18日）

JAにしみの営農連絡協議会の主催により、管内の小麦生産者を対象とした現地検討会が開催された。室内検討では、小麦の作柄や米穀情勢、小麦の雑草対策等についての研修が行われた。農林事務所からは、令和8年産小麦の生育推移や適期収穫について説明するとともに、肥料実証ほ（減プラスチック資材）の途中経過についても報告した。

その後、養老町と垂井町の肥料実証ほ場へ移動し、実証概要の説明を聞きながら小麦の生育状況を確認した。

農林事務所では、引き続き環境負荷軽減につながる肥料への切り替えを進めていく。



【小麦ほ場巡回】

### ■大豆 栽培研究会を開催（5月18日）

海津市営農協議会主催の大豆栽培研究会が開催され、農林事務所が講師を務めた。研修会では、近年の大豆単収の推移や気象状況について解説したのち、栽培暦に基づき基本技術の再確認を行った。また、近年は豪雨や長期干ばつなどの異常気象や帰化アサガオの蔓延により生育不良となることが多く、技術面での対処が必要となっている。

このため、農研機構が開発した播種法や他県で成果を挙げている帰化アサガオの防除体系について紹介した。特に、帰化アサガオ防除はJAのモニター試験で実証する予定であり、結果を同様の研修で共有していく。

梅雨明け後には大豆の播種が本格化し、令和8年産大豆栽培がスタートする。現地では、有望品種の試験栽培もおこなう予定のため、農林事務所では引き続き大豆の安定生産を支援していく。



【栽培研究会】

## 安心できる農畜水産業と農村の環境整備

### ■有機(小松菜) 第1回西濃地区有機農業推進プロジェクトチーム会議を開催（5月21日）

神戸町下宮集出荷センターにて、農林事務所が立ち上げた有機農業推進プロジェクトチームの第1回会議を開催した。営農モデル実証ほ生産者・JAにしみの・神戸町役場・県農産園芸課が出席し、昨年度までの取り組み内容の情報共有と今年度の実証計画について検討した。

プロジェクト5年目となる今年度は、水菜の有機実証で得られた成果を活かし新たに小松菜の有機栽培に挑戦し、有機栽培体系の確立を目指すこととなった。来年度以降は、品種やかん水方法などに取組むことになった。農林事務所は引き続き有機農業の推進を支援していく。



【プロジェクトチーム会議】